



(京都東北部・近江八幡)

蜂屋遺跡は標高一〇二m前後の扇状地中央に立地する。本調査は個人住宅建設に先立ち実施したもので、東面及び南面に庇をもつ、

- 1 所在地 滋賀県栗太郡栗東町蜂屋
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月
- 3 発掘機関 栗東町教育委員会
- 4 調査担当者 大崎隆志
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代・奈良時代・鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

八世紀代の東西二間以上×南北三間の掘立柱建物が確認された。全容は明らかではないが、恐らく東西棟の建物とみられる。身舎内部には浅い束柱痕跡も認められ、張り床構造の建物と推定される。周囲ではその他に、東西方向にのびる柵列

## 滋賀・蜂屋遺跡

や建物群を区画する幅〇・九mの溝も確認されている。今回紹介する木簡は、この建物の身舎南東隅の柱穴内から出土した。

### 8 木簡の釈文・内容

- (1) ・ □長等来

・ 亦二□

(102)×36×2 081

曲物の側板を転用したものと考えられるが、材の上下端が欠失するため、切り込みや小穴はみられない。表面最上部の文字は墨痕が薄く、判読できない。

### 9 関係文献

栗東町史編纂委員会編『栗東の歴史』第四巻資料I(一九九四年)

(大崎隆志)

